

Kibito

本づくりはまちづくり
No.15

2016. 7.30

発行 吉備人出版

TEL 086 235 3456 FAX 086 234 3210
岡山市北区丸の内2丁目11-22

現在の風景を 江戸の時間に重ねて歩く――。

尾島 治 (津山郷土博物館館長)
定価 1,600円+税



絵図で歩く 津山城下町

「城下町絵図」は
武士の居住地を
黄色、町屋が灰色
道路が赤で示す。
津山城下町を走る散策ガイド
江戸時代の津山にタイムスリップ!
コース地図と文久城下図付き

特集

絵図で歩く

「歴史」つむぐなどいにじ
転がつてごんぐだー

くれぐれも
署さぬ
よろしくお原負いします。

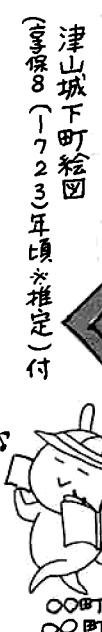


「絵図で歩く岡山城下町」
倉地克直・監修
岡山大学附属図書館・編
定価 1,500円+税



「絵図で歩く倉敷のまち」
倉地克直・山本太郎・
吉原睦
定価 1,600円+税

津山城下町絵図
(享保8(1723)年頃・推定)付



■津山市周辺の発展は、信濃川中島の海津城主だった森忠政が、美作18万5百石を与えられ領主として入国したことになります。忠政は、吉井川と宮川の合流点を見下ろす小高い鶴山を城地として定め、「鶴山」(つるやま)を「津山」に改めたと言われています。そして、津山を中心として整然として都市計画が実施され、城下町がつくられました。

■現在の津山の町は当時の古い家並み、町割りや道路、排水路など、城下町の構造が殆どそのまま残る、全国的にみても数少ない町です。

■『絵図で歩く津山城下町』は津山の町を6つのコースに分け、道順に沿って、津山城内と、城下町のスポットを古地図と一緒にCGで解説します。巻末折込の江戸時代と現在、2枚の地図を眺めたら、次にはそれを持って実際に町を歩いてみてください。

■注意深く観察して、現地であちらこちらに残る歴史的エピソードに出会い、当時の人々の営みや変化を感じたら、より深い歴史散策の旅になると思います。

現在の岡山市は、今から400年前につくられた城下町とともに発展。1945年の因山空襲で町の中北部は殆ど焼けてしまい、その面影はまったく残っていないかのように見える。しかし、お堀や地名など、あちこちに城下町の名残を見つけることができるし、本によると現在の道路も、城下町をそのまま受け継いでいる場合が多く、それが描かれた古地図と町の成りたちを解説していく本を頼りに、現代の岡山に残る「江戸時代」を探しに行こう。

江戸期から昭和初期の美観地区をはじめとした倉敷市街中心部を歩く。昭和3(1928)年に市制が施行され倉敷市が誕生。記念発行された「倉敷市新地図」(巻末に付録)をベースマップに江戸時代の絵図や古写真を使って解説。倉敷は商業・産業、そして何よりも大原美術館を代表とする文化のまち。明治以降の文化遺産も多し。地域の移り変わりを体感しながら、また歩きが樂しめるの